

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0672200177		
法人名	社会福祉法人悠愛会		
事業所名	グループホームメルヘン		
所在地	東村山郡山辺町大字大寺1132番5号		
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 30 日	開設年月日	平成 12年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3—31		
訪問調査日	平成 26年 9月 17日	評価結果決定日	平成 26年 10月 3日

# (ユニット名 憩いの園)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

憩いの園では、入居者一人ひとりが出番と役割を持ち、お互い支え合い助け合う姿があります。入居者同士のコミュニケーションも充実しています。私達は、その雰囲気を崩すことのないように心に寄り添い、笑顔で傾聴し安心感のある生活をサポートしています。また、楽しみや喜び、感動を提供し活動の広がりを支援し生きがいに繋げていきたいと思っています。家族との繋がりもサポートしていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな田園の中、広い敷地に法人各施設が隣接しており、6ユニットを有するグループホームです。ホーム理念「ゆっくり、楽しく、一緒に」が随所に活かされ、朝の掃除から始まり、調理、レクリエーション活動、各種イベント、畑づくりなど、自ら役割を持ち、必要とされ、感謝されることに喜びを感じ利用者はいきいきと活動しています。職員はサポートする側に立ち、一日の流れ、一週間の流れを頭に入れながらゆとりを持って利用者に関わっている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくりユニットの見えるところに掲げている。	法人理念「ゲストは恋人」に沿ってゆっくりと優しく接し、何をすることも利用者の自主性を尊重し一緒に行い楽しむことを心掛けている。「職員心得15ヶ条」で接遇や社会人としてのマナーも身に着けて支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地域のスーパーを利用している。小学校の行事(運動会、学習発表会、廃品回収)大寺地区全体の防災訓練等に参加し、交流を図れるように努めている。	隣の小学校とは長い付き合いがあり、居室からも子供たちの姿を見ることができ刺激をもらいながら、お互いの往来に繋げていきたいと希望をもっている。夏祭りには子供会、地域住民、家族会等の多くの方々の参加を得て行われている。	法人内施設との往来は多いが、広く地域の方達との付き合いが増え、認知症の理解が得られる様期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーへの買物を通して理解していただくよう努めている。文化祭時は見学会や小学生の訪問などを通して理解を得るように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を行っている。大寺地区の公民館館長、役場、民生委員にも参加していただき、6ユニットを回っていただき各ユニットの雰囲気を知ってもらい、ホームの活動等において助言をいただいている。	定期的な開催で地域の代表者はじめ家族会参加のもと、利用者手づくりのおやつとお茶で和やかな話し合いが行われている。また利用者の生活の様子などから気づきをもらい、公民館長からは地元の情報や行事への誘いがあるなど、実りある会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れや研修等の提出物の確認、運営推進会議にも参加していただいている。また、町からも行政等の報告など密にもらっている。	役場には運営推進会議の案内や報告に行き、その他の情報提供など受けている。介護相談員の来訪では利用者との関わりから第三者としての気づきをもらい、利用者の違った一面を知ることができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	学習会で身体拘束について学んだ。状況に合わせて、鍵をかけない時間をつくり拘束をしない工夫をしながらケアを行っている。	身体拘束はしないことを基本としているが、転倒のリスクについて職員は常に緊張感を持ってケアにあたっている。昼夜逆転したり、また頻繁に外に出ていこうとする方には法人内に情報提供をして全員で見守ってもらえるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法については学習会を通して職員全員で学び同じ意識のもと虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方がいるユニットより、情報を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、疑問点はその都度確認し、理解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談の窓口を設けている。家族会などで集まった際には、意見や要望を聞くようにしている。また、苦情があった際は管理者、職員で話し合いをしっかりと行い、改善に努めている。	「家族会」があり、草むしりや窓拭き、イベントには多くの参加・協力を得て利用者の安心と喜びに繋がっている。広報誌で日頃の暮らしぶりを報告し、行事へ誘うなど一緒に楽しみ何でも話し合える関係の構築を目指している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや目標管理シートを利用し職員の意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを有効的に活用し、一人ひとりが向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会も多く設けられており、内部の学習会においても、学ぶ機会を設けている。また、内部の学習会だけでなく外部の研修に参加できる機会も多く設けられている。	外部研修や資格取得にむけて法人からのサポートがあり、今年度はさらに内部学習の充実を図っている。年間の課題に基づいて毎月各ユニットの当番が勉強したことを発表し、質疑・応答などで理解を深め、より実践に近づけ、ストレスや不安なく仕事ができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や学びの場が多く持たれている。交換研修などで知れた情報をまとめ、職員同士で共有し参考にしていく。	村山ブロックグループホーム連絡協議会に参加し、交換研修等行っている。法人内の人事交流や夏祭りのボランティアに出かけ取り組みを見ることで新たな気づきを得、自分たちの職場に活かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から本人の情報を得たり、傾聴し共感する姿勢を大切にし、コミュニケーションを図り本人を知り、本人のペースに合わせて生活出来るよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、本人同様に家族に対しても話を聞く機会をつくり不安解消に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人に対して必要な支援を見極め、当グループホームでの対応だけでなく、他のサービス利用も含めた対応も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、家族のようにお互い支え合いながら、敬う気持ちを忘れず、教えをいただく関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出の機会を設け、また面会時には状況報告も行い、不安があれば共に解決していく努力をしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の支援、また家族を通してなじみの人や場所との関係が途切れないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い同士が自然に集まれる環境をつくり、また席の配置も工夫している。全員での外出、外食、個別での外出などでも支援している。自然に支える、支えられるという関係も生まれてきている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのり、利用が終了しても継続的な付き合いが持てるよう心がけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのケアプランにセンター方式を取り入れ、困難な場合こそ本人の気持ちシートを記入することで思いや暮らし方の希望など把握するように努めている。困難な方の場合は、時間をかけて会話に繋げ表情、態度などから思いを受け止める努力をしている。	気持ちシートに記入することで利用者一人ひとりを再認識することができている。また日常の調理など一緒にしている時の何気ない会話や表情から本音を聞くことができ、職員はそのような時間を大切に、日々の生活に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族に対して利用者本人の生活歴を聞き取りし、入居後の生活に活かしている。入居後も回想法などを通して情報を得たり、興味を持つ話題を提供し、これまでの暮らしの様子などを聞く機会をつくっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察や会話を通して、その人の状態を把握し、病気の早期発見や認知症の進行状況の把握にも努め、また毎日の花笠体操、みんなの体操、歩行訓練、立ち上がり訓練など体力アップ筋力保持の為、楽しみながら行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画が作られている。本人、家族の意向も取り入れられるように聞く機会も設けて、職員が作成している。その後家族へも情報を提供している。	家族からは「安全に健康で暮らしてもらいたい」との要望が一番多く、利用者本人の思いとそれらを維持するための生活スタイルの確立を目指し計画作成している。現状に即してかよく話し合い、3ヶ月ごとに見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを大切にして介護記録を記入している。各自の認知症の状況も記録し、現在の状態を職員で報告、連絡、相談を行い共有している。それを介護計画に活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の民生委員や消防の協力は得ている。小学校や地区の行事には進んで参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の病院を受診している方が多いが、病状に応じて他の専門の医療機関の受診が必要になったときは、医師や家族と連携をとり、本人および家族の希望を大切にしている。	隣接する法人クリニック、訪問看護ステーションを活用した医療面・健康面でのバックアップ体制がある。6ユニット間での連携と初動対応・手順を身に付ける実践形式の学習会をして緊急時に備えている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用し週一回の訪問で利用者の健康状態の把握に努めている。急変などがあれば、すぐに駆け付け対応している。また敷地内に医療機関がありドクターと看護師とも連携をはかっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、まめに病院関係者や家族と連絡をとり情報交換や相談を行い利用者の状態把握に努めている。また早期退院に向けた取り組みを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、家族から方針を聞き取りしている。重度の利用者については早期から医師や家族との話し合いの機会を持ち、今後の変化に備えて検討しチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方については、希望があれば最期まで支えるという姿勢で契約時に家族等から看取りについて書類で意思確認をしている。状況や意向の変化に応じて方針の話し合いを重ね、その都度変更も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会を定期的に行い、マニュアルも作成されている。心配蘇生法とAEDの使い方等を赤十字や看護師からも学んでいる。学ぶ機会は多いが緊急時の不安はある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、学習会で災害について学んでいる。地域の防災の協力も得ている。しかし、地震や水害は不安な面もある。	安全委員会を中心に防災計画を立て、召集訓練や夜間想定訓練等を実施している。チェックリストを使って毎月自主点検を行い、利用者の情報カードを入れた防災袋を各ユニットに備え、防災意識を高めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとり、人格を尊重することを心がけ、プライバシーを損ねない言葉掛け、大きな声で話かけない等を行っている。プライバシーの事についても学習会で学んでいる。	一人ひとりの生活歴を把握することに努め、その方に合った接遇を心がけている。プライバシーの配慮などは学習会のテーマにあげて学んでおり、職員は常に「利用者の立場にたって」を心に留めて取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちシートを利用し、思いや希望を話せる雰囲気づくりと1対1になる場面での傾聴。自己決定できるように、問いかけや気持ちを感じとるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや体調、その人のペースを大切に、利用者それぞれの希望に応じた支援ができるよう職員間でもコミュニケーションをはかり、希望にそえるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが出来ない方へは、声掛けし、整えられるよう支援している。外出やイベント時など、化粧をしておしゃれを楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を活かし職員と共に調理を行い食器の片付けも行っている。季節に応じた献立を考えたり、昔食べた懐かしい献立や利用者の希望の献立を調理行っている。手作り弁当を持つイベントも行っている。	食事は季節の旬の物を提供して、偏らず・バランス・品数を考え、一番おいしいと感じるタイミングも大事にしている。利用者には役割を持ってもらう事で張り合いを感じ、生きがいに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方や浮腫のある方嚥下障害のある方など、観察を通してその人の状態を見極め、一人ひとりの状態に合わせて対応を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けの必要な方、援助が必要な方一人ひとりの力に応じて支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛け、誘導、見守りを行わない毎朝の清拭で清潔感を感じ失禁の不快感の軽減から自ら訴えトイレでの排泄に繋がっている。	トイレでの排泄を大切に、職員は五感を使った気づきでさりげないケアに努めている。夜間はポータブルトイレを使っておむつに頼らない様になっている方もおり、和式や男性用のトイレなどその方の生活様式に合わせている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、腹部マッサージを行うことで自然排便につながっている方もいる。毎日の水分摂取や運動を行うことで、便秘の予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態に合わせ、また一人ひとりの希望を聞きとり、ほとんどの方は1日おき、また毎日入浴を楽しまれている方もおられる。	夜間の入浴などいつでも入れる体制を整え、また地元の温泉に出掛ける事もある。拒否する方には「ゆ」の暖簾や「肘折温泉」と名前を付けて視覚的に興味を誘い入りたくなる気持ちを大切にしている。また職員は転倒防止や身体観察に気を付けて介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や生活リハビリを行う事で昼寝の軽減にも繋がっており、また個別の外出、全員での外出、買い物などでも夜間の良眠に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方のときに頂く説明書の薬の働きや注意事項、相互作用や副作用などに目を通し理解するとともに、薬の変更があったときには申し送りをしっかり行い、職員一人ひとりが熟知できるよう対応している。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を活かし、役割をもって生活し生きがいを持てるよう支援している。花の世話や、季節ごとのイベント、弁当持参でのドライブ、外食、おやつ外出等を行い気分転換をおこなっている。また、冬場は室内での景品付きゲームを開催し職員と一緒に楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をかなえられるよう外出を多く取り入れている。家族や地域の友人と外出する方もおり、協力を得ながら支援している。	日常的には広い敷地を活かし散歩がてら畑の見回りやゴミ捨てなどに出かけている。天気の良い日は外でティータイムを楽しみ、隣接の法人施設からも声が掛かるなどちょっとした交流の場になっている。秋には秋刀魚焼きやいも煮会のイベントも楽しみにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない利用者が多いため、お金の管理は職員で行っている。本人の買物の際は預かっているお金から支払いをもらい、レシートと共に台帳に記入し保管している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら友人へ手紙を書く方へは、一緒に便せんや封筒、切手を買に行き、職員が投函している。電話については自ら掛ける事は難しい為、職員が電話をつないで対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の棚に季節感を感じていただけるように花や山野草の鉢を置いたり、利用者がくつろげるようソファなどを置いて好きな音楽を流し、不快感がないよう心がけている。また、利用者にあった温度、湿度の設定をしている。また時間によって光の入り方が変わる為カーテンで光の調整を行い不快を感じないようにしている。	各ユニットそれぞれに趣きがあり、飾り付けた作品などから利用者の様子が伝わってくる。掃除もできる方が日課としていきいきと行っており、気に入った場所で新聞や雑誌を読んだり自宅の暮らしそのままの風景がみられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で話やすい空間になるように、共用のスペースにソファを並べて、個別でゆっくり寛いで過ごせるような場所を確保している。面会者にも利用いただいている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人、家族と相談し、本人の使いなれた家具、テレビ、写真、趣味の道具などを持ち込んでいただき利用者が居心地良く、安心して過ごせるように工夫している。	畳とフローリング二種類の部屋は、個室、つなげて夫婦部屋として使っている。洗面台や大き目のクローゼットの設置、各居室近くにトイレを配置して利用者にとって安心なつくりとなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、脱衣場、浴室など利用者の可動域を考え、適宜な場所に手すりを設置しており自立した生活、事故のない生活がおくれるように工夫しながら支援している。また、足元や移動域に物を置かないよう環境整備を心掛けている。			